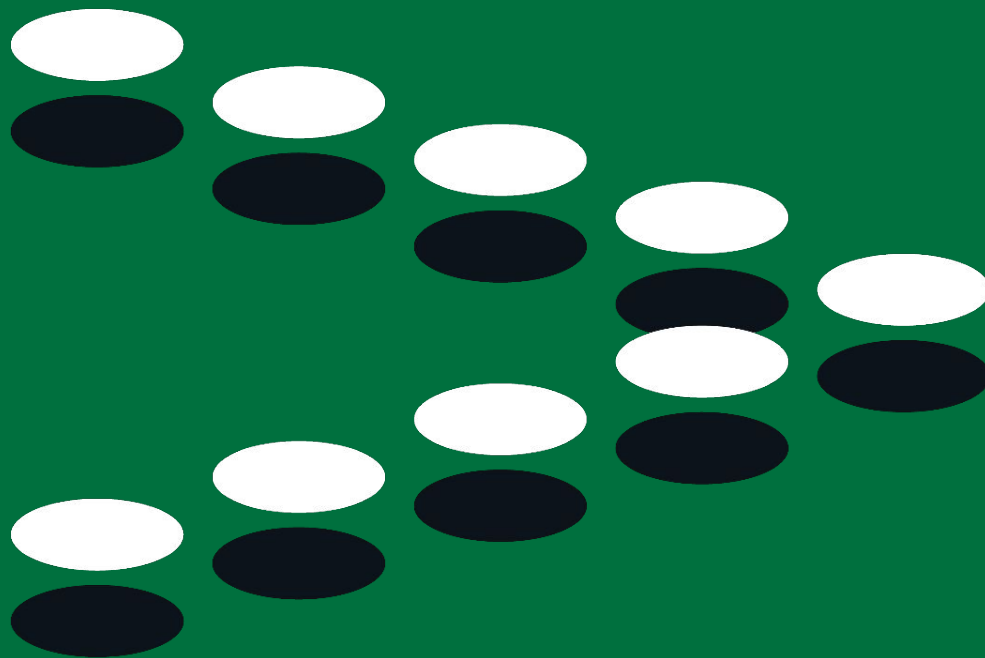


Design

Futuring

Workshop



意志ある未来を選び取り

ビジョンからロードマップまで

一貫して描きます

Design Futuring Workshop

単なる未来予測ではなく、複数の可能性から自ら望む未来を選び取ること（Futuring）を起点とし、組織のビジョン策定や中長期計画の立案、およびマインドセットの変革を支援するデザインプログラムです。

抽象的な未来のビジョンを「未来新聞」などのプロトタイプを用いて可視化し、ロールプレイングを通じた対話を行うことで、多様なステークホルダー間の深い合意形成を促進。さらに、描いたビジョンからバックキャストし、明日から実行可能な具体的なロードマップまでを一貫して作成します。

ビジョン宣言シート

私が20xx年に望むのは

人々が安価に配布された埋め込み・装着型デバイスで行動ログを取得し、健康や行動選択に役立てつつ、18歳以降はビッグデータ提供を自ら選択できることで、格差なくQOLが向上する未来。

な世界である。

このビジョンを実現するためには

埋め込み・装着型デバイスの普及には、情報リテラシー教育やガイドライン整備、格差対策とデータ選択権、年齢基準を含めた社会的仕組みづくりが必要である。

という課題がある。

これを実現するために私は

埋め込み・装着型デバイスの普及とデータ提供によって、「こんな価値が享受できるのか!」と感じる人が増えるような魅力的なデータ活用サービスを、サービス提供者として開発・提供する。

をしたい。



本プログラムが対象とする課題

このような課題に本プログラムが効果を発揮します



従来の未来予測や短期的な問題解決のアプローチだけでは、予測不可能な時代の変化に対応できません。
多様な文脈で本プログラムを導入することで、強いビジョンの策定・マインドセットの変革をもたらします。

ex.) 経営企画部門

経営層と現場における ビジョン・意識の乖離

経営層の掲げるビジョンが曖昧で現場の行動に繋がらず、担当者は板挟みに。
事業アイデアを考えても経営判断を決定づける客観的な根拠や未来への確信を示せず、提案が停滞・頓挫してしまう。

ex.) 事業開発部門

不確実な未来に対する 根拠と軸の不在

急速に変化するテクノロジーの潮流や社会構造のシフトをとらえきれず、事業の方向性に確信が持てない。
判断軸がないため、関係者間での優先順位づけや意思決定の軸がブレてプロジェクトの推進力を失ってしまう。

ex.) 研究開発部門

短期思考と 直線的アプローチの限界

顕在化した課題の解決や短期的な数値目標に追われ、既存技術や与えられた選択肢の中での思考に閉じてしまう。
過去の延長線上にとどまり、長期的な成長を牽引する飛躍的なアイデアが生まれない。

本プログラムの提供価値

変革を導く強いビジョンをマルチステークホルダーと共創する

事業開発の道標となる「北極星＝ビジョン」を複数ステークホルダーの議論を経て策定。単なる未来予測ではなく自らの意志で未来を選択（Futuring）し、組織の思考を変革しつつ実行の戦略までを一貫して描きます。

ビジョンの質の担保： 複数ステークホルダーとの共創

未来新聞のプロトタイプ制作やロールプレイング議論を通じ、未来世代や社内外の多様な視点を経てビジョンを策定。

一部の経営陣だけのものではない、関係者が腹落ちし共鳴できる「解像度と納得感の高いビジョン」を作成できます。

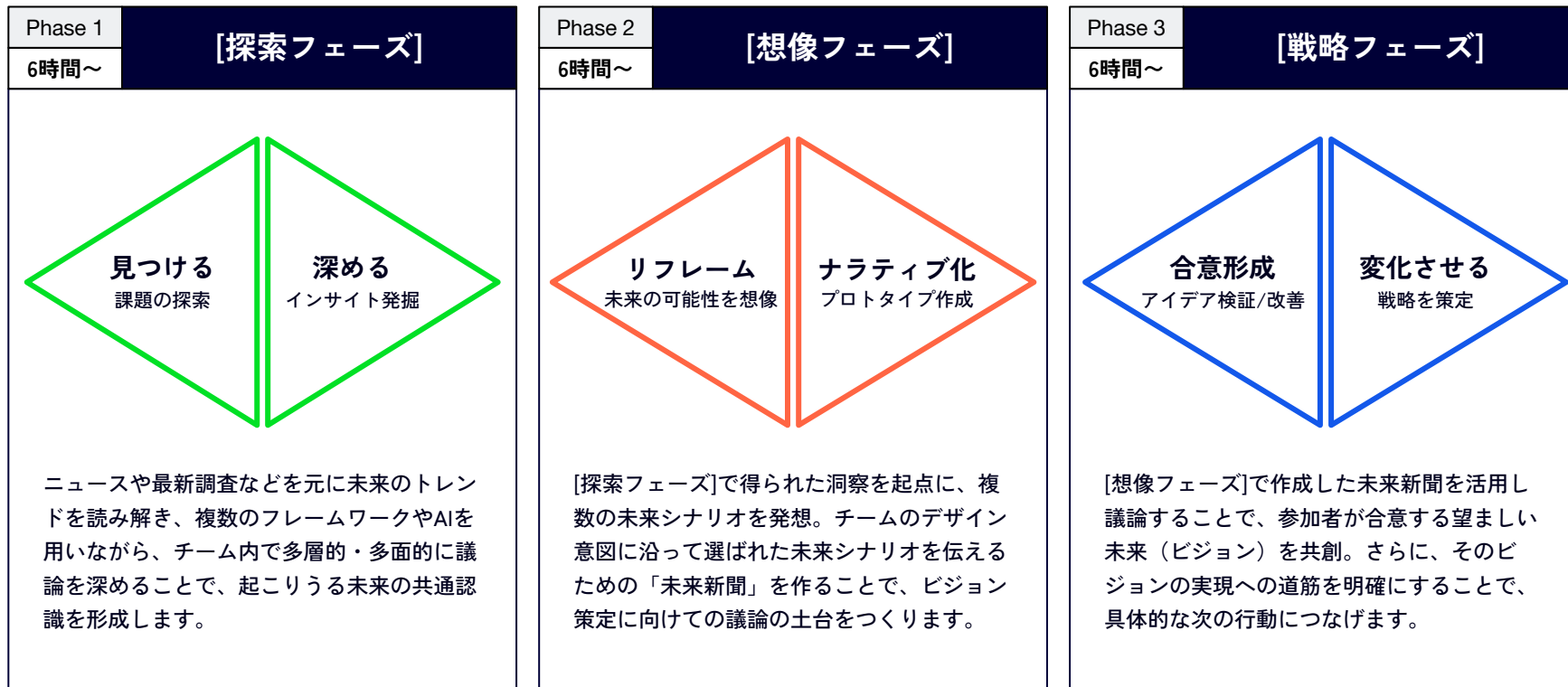
実行への一貫性： 理想とアクションの接続

ビジョンを理想で終わらせず、選択した未来から逆算して必要な課題やアクションを構造化。自分たちの「意志」の可視化から、ワークショップ終了後に一人一人が明日から具体的に動ける、実践的な実行ロードマップまでを一貫して作成します。

マインドセット変革： イシューからビジョンドリブンへ

既存の延長線上にある課題解決（イシュードリブン）に留まる思考から脱却。未来の可能性を広げる様々なツールやプロトタイプによる可視化と議論を通じて思考の枠組みを拡張し、未来志向・問題提起のマインドセットと可視化・議論する力が身につきます。

プログラム全体の実施プロセス — 3日間実施の場合



Phase1 [探索フェーズ] の詳細プロセス

ニュースや最新調査などを元に未来のトレンドを読み解き、複数のフレームワークを用いながら、チーム内で多層的・多面的に議論を深めることで、起こりうる未来の共通認識を形成します。

Phase 1 [探索フェーズ]

未来の兆しの探索

<個人ワーク>

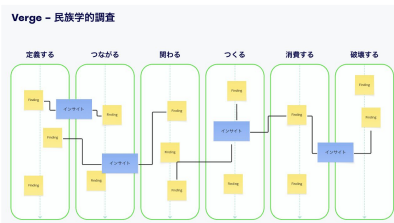
ニュースや最新調査などのリサーチ結果を参考に、AIと対話しながら、各自の関心分野における未来の兆しとなるテーマを探索・発見します。



未来トレンドの特定

<グループワーク>

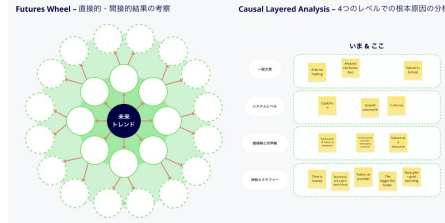
各テーマをチーム内で共有し、それらの背後にある文化的・社会的な側面を分析することで未来のトレンドを特定します。



トレンドの深掘りとインサイト抽出

<グループワーク>

特定した各トレンドが未来に与える影響や背後の価値観を掘り下げ、そこから見えてくる洞察をインサイトシートとしてまとめます。



Phase2 [想像フェーズ] の詳細プロセス

[探索フェーズ]で得られた成果物を基に、複数の可能性の中から起こりうる未来をチームで選択し、それを効果的に伝えるプロトタイプを制作します。

Phase 2 [想像フェーズ]

未来シナリオの構築

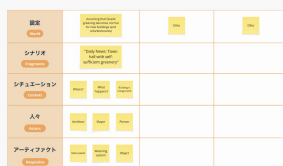
<グループワーク>

ワークショップ[探索フェーズ]で作成したインサイトシートを踏まえ、望ましい未来や起こりそうな未来をチームで議論し、その結果を未来シナリオとしてまとめます。

4つの未来の原型 - 成長、衰退、不変、変容



体験的未来ラダー - 設定、シナリオ、シチュエーション、人々、アーティファクト



ナラティブとしてのプロトタイプ制作

<グループワーク>

完成した未来シナリオを基に、より具体的な未来像を表現するため、生成AIを用いてアイデアを形にするプロトタイプ制作（架空の新聞記事「未来新聞」）を行います。



Phase3 [戦略フェーズ] の詳細プロセス

[想像フェーズ]で作成したプロトタイプをさらに洗練させ、望ましい未来に至るロードマップと具体的なアクションプランを策定することで、未来イメージの解像度を高め、実現への道筋を明確にします。

Phase 3 [戦略フェーズ]

未来体験を通じたプロトタイプ改善

<グループワーク>

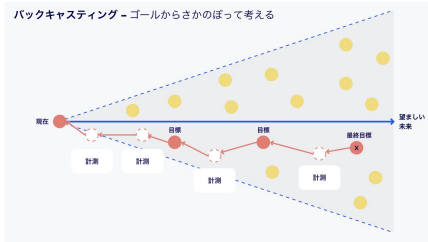
ワークショップ[想像フェーズ]での成果物を用い、ロールプレイを通じて未来を体験します。その気づきを通じて未来像をより具体化し、プロトタイプを改善します。



望ましい未来へのロードマップとアクションプラン策定

<グループワーク>

望ましい未来への道筋をチームでロードマップとして設計します。さらにメンバー各々の立場から実行可能なアクションプランを検討します。



成果物のサンプル

ビジョン宣言シート

ビジョン宣言シート

私が20xx年に望むのは

人々が安価に配布された埋め込み・装着型デバイスで行動ログを取得し、健康や行動選択に役立てつつ、18歳以降はビッグデータ提供を自ら選択できることで、格差なくQOLが向上する未来。

な世界である。

このビジョンを実現するためには

埋め込み・装着型デバイスの普及には、情報リテラシー教育やガイドライン整備、格差対策とデータ選択権、年齢基準を含めた社会的仕組みづくりが必要である。

という課題がある。

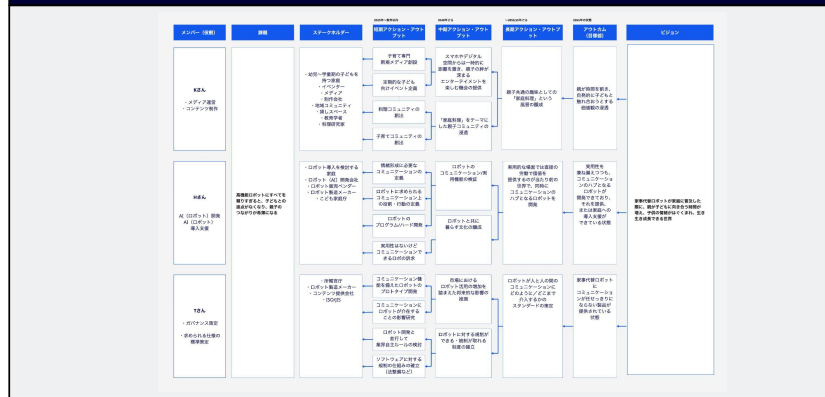
これを実現するために私は

埋め込み・装着型デバイスの普及とデータ提供によって、「こんな価値が享受できるのか」と感じる人が増えるような魅力的なデータ活用サービスを、サービス提供事業者として開発・提供する。

をしたい。

議論を通してブラッシュアップした理想の未来像をチームで一つのビジョンとしてまとめた上で、「個々人が」ビジョンに対してどのように向き合うのかを宣言するシート。ビジョン実現のために取り組む課題と行動方針を明らかにすることで、共通するビジョンを個々人にとって自分ごと化できます。

ロードマップ



チームで合意したビジョンから逆算し、メンバー個々人の現在と理想を繋ぐロードマップ。ビジョン実現のための課題やステークホルダーを明確にし、短期・中期・長期の3段階で活動内容とアウトプットを整理。ビジョン実現のために個々の具体的な行動へ落とし込みます。

導入事例 インフォバーンデザインスクール 6期 ビジョンデザインクラス

クライアント：コンサルタント、編集者、人材育成企業 | 実施期間：2ヶ月（6h x 3Days）

受講者の課題

日常的に慣れた問題解決思考（イシュードリブン）ではなく、ビジョンを起点としたビジョンドリブな思考およびアプローチによる事業構想スキルの拡張を目的とされていました。

実施概要

オンラインツールのMiroとフィジカルなツールを組み合わせた対面ワークショップ形式で、全3日間で実施しました。

成果

問いを投げかけるための未来新聞、議論を経て策定されたビジョンとその個人の向き合い方をまとめた宣言シート、実行計画にあたるロードマップを作成。フレームワークによる発想の飛躍、プロトタイプによる可視化の効果、それらを通した問題提起・ビジョンドリブな思考の使い方を体感いただきました。



実施内容に応じた料金サンプル

サンプル1：10名規模の研修として実施

料金サンプル

¥3,000,000～
(税抜)

内容

- 実施期間：約2ヶ月（設計期間・インターバルを含みます。研修時間は7h程度 x 3日間を予定）
- 受講者数：10名を想定
- メインファシリテーター：1名
- テーブルファシリテーター：2名（受講者数に応じて増減）
- 成果物：未来新聞（チームごと）、ビジョン宣言シート（個人）、ロードマップ（チームごと）

期間

約2ヶ月

サンプル2：企業・部門のビジョン策定PJとして実施

料金サンプル

お問い合わせください

内容（目的・スコープに応じて設計いたします）

- キックオフセッション
- デザインリサーチ（社内デプスIVなど）
- ワークショップ実施 x 3回程度
- 成果物：未来シナリオの作成、ビジョン策定、ロードマップ策定
- レポーティング
- オプション：成果物のビジュアルライズ、浸透施策検討など

準備期間目安

約3～6ヶ月

※上記はあくまでサンプルの価格感となります。目的や内容に応じて御見積をさせていただきます。

お問い合わせはこちら

<https://idl.infobahn.co.jp/contact/inquiry>



idl@infobahn.co.jp
<http://www.idl.infobahn.co.jp>

Follow us

 @idlists

 infobahndesignlab

 infobahndesignlab

 idl_mag

Company Profile 会社概要

法人名	株式会社インフォバーン
英文法人名	INFOBAHN Inc.
代表	代表取締役会長兼社長 CVO（Chief Visionary Officer）／共同創業者 小林 弘人
役員	取締役 副社長：井登友一 取締役 共同創業者：今田 素子 取締役：三宅 綾 執行役員：羽村 悠己／関本 美帆／上野 菜美子／辻村 和正／河野 光宏
創業年月日	1998年10月30日 ※持株会社制移行につき、設立年月日は2015年7月1日
資本金	5,500万円 ※2019年5月末日時点
事業内容	デザインコンサルティング事業 ビジョン策定支援／新規事業開発支援／製品・サービス開発／デザイン人材および組織開発 ブランディング事業 ブランド戦略策定／コーポレートブランディング支援／インターナルブランディング支援 コミュニケーションデザイン事業 コミュニケーションプランニング／オウンドメディア戦略・運用支援／コンテンツマーケティング支援／デジタルマーケティング支援 コンテンツプロデュース事業 コンテンツ制作／クリエイティブ制作／Webサイト制作・Webキャンペーン／イベント企画・制作

INFOBAHN

<https://www.infobahn.co.jp>